

時計



Bブロック全作品と講評

www.columnland.net

Time is limited

7時40分 君はホームに降りてくる

寝坊したのかな

7時41分 君は決まって僕の右斜め前

8時01分 まだ迷ってる よし

緊張で声がうわずる

8時17分 至福の時間が終わる

君の笑顔に天使を見た

7時40分 君はホームに降りる

7時56分 今度は

今度は 僕の横に座る

8時16分 時計が 時間が

止まったらいいのにな

8時18分 僕はホームにたたずんでいた

心に君の笑顔を写しながら

ゲーム

目が覚めると、俺は真っ白で扉が一つあるのみの部屋にいた。そこには俺のほか、サングラスをかけた女が一人と、若いスポーツマン風の男一人がどちらも眠っており、部屋の中央には壁掛け時計が無造作に置いてある。よく見ると、時計に一枚の紙が挟まっているのに気付く、それを手に取ると、そこには

「十二時ちょうどに、この部屋をでた先にあるカードリーダーに、自分の首にかかっている『カードを通した一人だけに脱出を許す。一分でもその時間と違つ時間にカードを通した者や、二番目以降にカードを通した者に命はない。』と書かれていた。

気付くと、三人の首にはそれぞれ『カードのようなものがかかっていた。状況を把握するのに戸惑ったが、しばらくしてこれが相手を騙して自分だけが時間通りに部屋を出るゲームだとわかった。時計はちょうど六時を指している。他の二人は眠っている。俺はとっさに時計の針を一時間進め、何事もなかったように元に戻した。時計を遅らせて先に出ようとしても、若い男に体力の差で負けると考え、逆に先に出してしまおうと考えたのだ。俺は眠っている二人を起こし、自らも何も知らないように装った。二人も初めは状況を把握できなかったが、女が紙を見つけると三人でそれを読み、全員が今の状況を理解した。すると、『誰か一人が生き残るより、わずかな可能性にかけてみんなで一緒にいよう。』と男が言い、みんなが大きくうなずいた。そう、心の外では。

三人は次第に打ち解け、お互いのことを話しながらあつという間に時間は過ぎて行つた。すると突然、女が「ちょっとトイレ。」と言つて立ち上がった。このとき時計は十一時五十九分を指していた。男が気付く。「トイレなんかあつたっけ？」すると女は「あんたたちが素直で助かったよ。あんたたちの分まで生きてやるから。」と言つて部屋から出て行つた。呆然とする男。するとゴンツという鈍い音と女の悲鳴が聞こえ、俺たちがあわてて扉を開けると、廊下の向こうで女が倒れていた。頭からは血のようなものが流れている。「どういうことだよ。」「パニック状態の男の横で、俺はこの男よりも早く部屋を出る方法を考えていた。沈黙が続く。時間が無情にも過ぎ、時計の針が十二時四十四分を指した時、男が扉に向かって歩き出した。『どこ行くの?』俺が尋ねると、男は「芝居はもうやめろよ。おまえが一時間進めたこと知ってたんだよ。ただ残念だったな。おまえが起きる前に、先に俺は十五分遅らせてたんだ。」と言ひ放つた。しまった。と俺が思ったそのとき、時計の針は十二時四十五分を指し、男は扉を開けた。

「嘘だろ……」

一瞬で顔が青ざめた男の先にはあの女が立っていた。「おかしいと思つたよ。あんたたちが時間の一分前になつても平然としているからさ。それにしても、こんなんでも騙されるなんて詰めが甘いんじゃない?」左手に口紅を持ちながら、握つた右手で壁を叩くとゴンツという鈍い音がした。膝から崩れ落ちる男。不敵な笑みを浮かべる女。そんな二人を横目に、俺はすべてを察した。

そう、この三人は誰も助からないことを……

後ろで、時計の針は十二時四十六分を指していた。

「秒針の気持ち」

チクタクチクタク

時を刻む

みんなに時を知らせるために

チクタクチクタク

時を刻む

僕は忘れられてしまいがちだけど
一秒一秒時を刻むよ

チクタクチクタク

だから

たまに

僕の頑張りを見てほしい
止まることを知らない僕のことを

チクタクチクタク

時を刻む

みんなに時を知らせるために

チクタクチクタク・・・

その振動が、私たちを追い立てている。

手首に巻きついた蛇の顔色をうかがう。

小刻みに震える蛇の舌をしばらく目で追いかける。

やがてたまりかねたように視線を外す。

ほんやりと物思いにふけてみる。

そして再び蛇の顔色をうかがう。

いつ噛まれるかと怯えるように、何度も蛇の顔色をうかがう。

蛇が動かなくなる。

不安になって他の蛇の顔色をうかがう。

蛇がいなくなる。

困った困ったと周囲を見回す。

つまるところ私たちは蛇に依存している。

断続的に動く舌

手首を締め付ける腹

耳障りな鳴き声

私たちはその蛇に管理されている。

今日も蛇の顔色をうかがう。

チクタクと動く舌を眺める。

小刻みに震える細い針。

その針動が
私たちを追い立てている

B-5
チクタク・ランデヴー

彼はいつもせっかち。

いつだって私より先に前に進んで行ってしまふ。

でも寂しくないの。

私はそれが彼の照れ隠しだと知っているから。

勝手に先に行っちゃう彼だけど

結局最後は私の元にやってくる。

背の高い彼と、

背の小さい私の、

4,000秒くらいの

愛の追いかけっこ

教室の隅で

僕の目の前に座っている子はいつも泣いている。運動もできないし、勉強もできない。ほかの子に馬鹿にされ、いつも泣いている。

ある日その子はいかに反撃に出た。

「次のテストは絶対満点取ってやる！」いじめっ子に言い放った。僕はうれしかった。彼の勇気が、成長が。

テストの日、彼は緊張しながらも、自信にあふれた顔をしていた。きつとたくさん勉強してきたんだろう。

「テストは五十分。前の時計で計ります。」先生が言った。

テストが始まると、その子は一生懸命書き始めた。

考えては、書き、考えては、書き、ゆっくりながらも着実に。

でも最後の最後で手が止まってしまった。あせる少年。

もう時間があんまり残ってない。このままじゃ満点が取れない……

でも僕はもう彼の涙は見たくなかった。

僕にできることは一つしかなかった。僕が死ねばいい。

僕が死ねば、五分くらいは稼げるだろう。

できれば彼の笑顔が見たかったけど、しようがない……

彼が満点を取れることを信じて……

さよなら。がん……ばっ……て……

テストが終わったとき男の子は満面の笑みを浮かべていた。止まった時計の下で……

時刻むもの

私には気になっている人がいる
名前も知らないが、毎日よく見かける人で
いつも黙々と歩いている

「あの・・・」

そう話しかけようとしても

その人は急いでいるのか、見向きもせず

ただ私の横を通り過ぎてしまう

何度も何度も会うたびに話しかけようとしてみるが
結果は同じことだった

会う機会はたくさん与えられているのに

神様は私たちが話すことを許してはくれない

きっとこのことは逃れようのない宿命なのかもしれない
無理にその宿命から逃れようとして

私たちが足を止めたとき

私たちはもうこの世界にはいないだろう

私たちの悲しい宿命

一時間ごとに会うことができるのに
立ち止まって話すことができない

そう、それが

長針と短針の宿命

個人主義

そこでは日夜研究が行われていた。

そしてある日、ついにその研究は完成した。

「ついに、ついにできたのかね。究極の時計が。はやく、はやく見せてくれ。」

「そんなにあせらいでください。いますぐ持つてこさせますから。」

「そうか。ああ、待ちきれない。今度のものこそ究極の時計だ。本当の時計だ。これでやっと正しい時間で時を過ごせる。」

「苦労しました。個人ごとのデータの相違全てに対応しないとイケなかったんですから。」

「ああ、だがこれで、この発明で全ての人が自分の時間を持つことができるようになる。もともと人というものはそれぞれに時間の感じ方が違うのだ。簡単に一分、などというがそんなもの人によって意味がまったく違う。いままでの「時計」などというものは実に不公平なものなのだ。」

「それはその通りですね。人はそれぞれの時間を生きるしかありません。」

「ああ、そしてこれは本当に個人主義にのっとった社会をつくる第一歩でもあるのだ。真に平等な社会。それをつくる力をわたしたちは得た。そう思わないか？」

「未来についてはわかりませんが、これは歴史に残る発明だといえるでしょう。それについては保証します。」

「フン、何を逃げ腰になっているのか。まあいい、早く時計をもつてきてくれ。」

研究者は少しかたをすくめて後ろをむいた。

「研究資金、ありがとうございます。あれだけの予算がなければ、とてもできるものではなかった。」

「なんだいまさら。金がほしいと泣きついてきたのはそっちだろう。俺は欲しいものには金は出す。欲しいものにしか出さないがな。分かっていたことだろう？」

「ええ、おかげさまでこの研究も完成しました。もう思い残すことはありません。」

「おいおい、なにを言い出すかと思えば・・・おお、ついにきたか。これが究極の時計・・・

これは何だ？」

「見ての通りです。」

「妙に赤黒いようだが？」

「はい。」

「・・・脈打っているな。」

「はい。これは全ての人が平等に持ち、その人の時間を正しく刻むもの。心臓、のレプリカです。」

オレは時計いらずの男

窮屈な上下関係、苦しい貧困社会、見苦しい政治によって成り立つ世界から解放された男

ゆえにオレは何者からの束縛もされない好きなように飯を食べ、動き、寝る

時間にとらわれることなく、不規則的な、無計画な生活を日々すごしている

ああ、なんて解放された気分なんだろう

だけど、ときどき不安になる

解放されているがゆえの不安

オレは本当に自由に暮らせているのだろうか？

ただ社会から逃げているだけではないだろうか？

私は時計不可欠な男

規格化された社会、設置された将来への道、義務や責任によって成り立つ世界に従っている男

ゆえに私は何者からも誘惑されない決まった時間に起き、出勤し、働く

常に時間を確認し、規則的な、計画的な生活を日々すごしている

ああ、なんて充実した生活なんだろう

でも、ときどき不安になる

社会に従っているがゆえの不安

私は周りに流されているだけではないだろうか？

ただ個として存在することから逃げているだけではないだろうか？

本当にこれでいいのだろうか？

どんな生き方であれ必ずでてくる疑問

あなたは面と向かってこの疑問に立ち向かえますか？

時計という社会の基盤から 外れようが 従おうが

大切なことは同じ

自分に誇りを
持てること

僕ですねー

よくA型？って訊かれるんですよ。

まあ確かに

まじめに仕事してるし律儀だし

時間に正確なほうだし。

でもさ

僕だってたまには

はめはずしたいときもあるんですよ。

いつもと違った斬新なこと

やってみたいんですよ。

でもさ

先入観って怖いですね。

僕はこういう風にあるべきだっていうイメージが

皆の中で

固定化されちゃってるみたいで。

でもさ

1回でいいからやってみたいんですよ。

おもしろそうじゃないですか。

だけどさ

たった1回やっただけでも

こいつ狂ったと思われそうで

怖い。

あー

いつか

左向きに回ってみたいなー。

時

計

の

き　や　ぶ　つ

だいがくせいにつぎ

四月五日

入学式。憧れの大学生になった。

これから勉強もサークルもがんばろう。

四月七日

講義開始。内容は難しく、授業も長いが、

学生の本分は勉強なので努力しようと思う。

四月十三日

時計を忘れたため、どれだけ時間が経ったのか分からず、

苦痛だった。入試の時から疑問に思っていたが、

何故、講義室に時計がないのか。

四月十五日

授業中寝てしまった。

サークル活動があるので復習する時間もない……。

四月三十日

ねる事になれてしまい、

ぜんぜん授業をきいていない。

GWがあけたらがんばる。

五月六日

連休明けだったけど、むりだった。

あしたからがんばる。

五月十二日

なんで講義室に時計がないのかがわかった。

まじめな学生は時間など気にしなくて良いし、

そうでない人も時間を気にする必要などないのだ。

恋時計

「ねえ、ドラマや漫画とかで、

この幸せが永遠に続くよう、時間よ止まれ、
みたいなセリフがあるじゃない？

でもさ、たとえ幸せだったとしても、

時が止まってしまうのは非常に残念だと思うの。
だってね、私はいつだって同じ時を歩んでいたいの

——キミと一緒に。

私、キミのことが好きみたい。」

僕の胸の鼓動がいつそう早く時を刻みだした。

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	十二時五十九分	2 pt	9 位	8 sp
		日付が変わる瞬間のときめき。それとも深夜のハイテンションでしょうか。 あざやかなレイアウトとフレーズ、文字の数まで十二個に揃えて、きれいにを見せていただいた今週の表紙なのですが、が、が…… あーあーあー。やってしまいましたね。十二時から一時のほうがり切り替わるタイミングの気がしてしまう。ちょっとした勘違い、といったところでしょうか。 でも、そこがかえって注目してもらえて、圧勝最多特別賞&今週のイチオシフレーズ大賞のダブル受賞でした。結果オーライと考えましょう、おめでとう!! 特別賞：あと一步で賞（十二じゃなくて十一！）1時間遅刻で賞これはきっと11時59分で賞 タイトルミス賞（一分進んでも日付は変わらない）惜しかったで賞（1時間ズレました） マチガイ賞（十一時じゃね？） いじりたい賞（なんで十二時五十九分なのか的な） 1時間早かったで賞 イチオシフレーズ：「十二時五十九分」×3 「今日が昨日に明日が今日に」		
A02	相対性理論の話	4 pt	7 位	1 sp
		なんだか憎めないヘンなおっさん。あーあ壊れちゃったというオチへ行くまで、ぐるんぐるん一緒に時計の行方を見つめてしまいました。 意外とおっさんもマジメに信じてたのかも？ 悪人の登場しない世界にほのぼの。 特別賞：道ゆくおっさんに気をつけま賞（この賞をどうしてもおくりたかった）		
A03	無題（液体のようなあの子が好きだった）	4 pt	7 位	0 sp
		あの子は液体、ゆるい存在。 過去形なところがせつないですね〜。「手首の上の檻」というイメージが斬新です。全体、まるで歌詞のようなふうわり感。		
A04	時計回りの生活に対して私ができることはただ警鐘を鳴らすことだけであろう	10 pt	3 位	2 sp
		軍艦島、珍しいところへご案内いただきました。 ちょっと感動の表現が大仰でかえって読み手を引かせてしまうのが難点だけど、とにかく感じたことをどうにか届けようという真剣さがきっちり伝わってきて好感度大です。がんばれ正統派！ 応援気分も加わってのブロンズ・メダルでした、おめでとう！ 特別賞：まさにコラムで賞（最後まで真面目なコラムだった。） 文才賞（小説や評論を書いて生活を営んでいる人のような文章だったから）		
		2 pt	9 位	0 sp
		呼ばれているのに反応できない超眠さ。		

A05	まどろみ	さざなみレイアウトで、その夢うつつ気分を伝えつつ、スヌーズのひとつでさらりとオチ。ていねいに仕上げられたグッジョブでした。 イチオシフレーズ：「んごおおー」×2
A06	一時間屋一	8 pt4 位1 sp アヤしい裏路地。つついハマってしまうセールストーク。王道の設定ですね。 長いけれど、とても分かりやすくする運ばれて、そうは問屋が卸しませんでしたオチ。ドラマ性ゆたかな仕上がりですが、ラスト、ちょっとズルいぞ時間仲介屋さん。 特別賞：S F 的で賞（よかった） イチオシフレーズ：「杳」
A07	大決戦	19 pt2 位0 sp 暑苦しさがリアルです。時計に追い立てられて、焦りまくってる脳内劇場。 プロといえども、こんな面はありそうだなあと思わせる迫真の描写で、ぐいぐい引き込んでいただきました。目の前のできごとなのに全然気づいていない時計係のお嬢さんが、またいい味ですね。 おめでとうシルバー・メダル!! イチオシフレーズ：「こんな切迫した対局、見たことないわ!」「なんて白熱した戦いなのに!」「さっさと投了して、育毛に専念しろよ」
A08	僕の三六五面体	1 pt12 位1 sp 「僕は拒む」というフレーズが読み手を驚かせて、重石のように効いています。 ただ引用でまとめて中原中也の印象が強くなってしまったので、もっと全体を自分の言葉で深く構成するとよいのでは。 特別賞：解説してほしいで賞
A09	復讐の時	23 pt1 位1 sp おー、うまいうまい。このあと捨てられちゃうことも辞さない、まさに捨て身の復讐ですね。 最初から語り手の正体はバレバレなのに、きっちり引き込んだじゃう、それだけこの目覚まし君のキャラクターがしっかり立っていました。キャラ造型の見本、見習うべし。壇上の作者コメントまで、目覚まし時計になりきって愛を訴えるなんて、やるなあ！おめでとうゴールド・メダル!! 特別賞：あるある賞（共感できたから） イチオシフレーズ：「思い知れ。」「・・・なんで目覚まし鳴らなかったんだ?・・・」
A10	砂時計の愛	8 pt4 位0 sp ふたりのあいだの砂時計。比喻がきれいに効いています。 近づきすぎないほうが長続きするんだよ。まさに恋愛の極意ですね。この道まだまだ初心者みなさまは、しっかり会得すべし。
		7 pt6 位1 sp 時計じゃない腕時計っていったい……派手なセールストークの結末に啞然です。

A11	【特報！】話題の高性能腕時計がついに発売	でも、本来の目的を失ってしまったモノって、身近に意外にあるかも。 レポートの重石にしか使われない広辞苑君とか、辞書＆目覚まし時計と化してしまった携帯君とか、……悲しすぎるか。 特別賞：コナン賞（イラスト付き） イチオシフレーズ：「＊軽量化のため、時計機能は搭載しておりません。」 「万が一のために小型麻醉銃を標準装備！」
A12	腹時計	2 pt9 位0 sp しっとり始めておちゃめに終わる。 フォントのメリハリで、視覚的に攻めて、読まれる時間帯もジャストフィットなすぐれものの裏表紙でした。 イチオシフレーズ： 「グゥー——————ッ！」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	Time is limited	0 pt11 位2 sp 電車での出会い。小さな空白をはさんで、ささやかな進展。がんばれ内気な僕。 すべてを書ききらないことで、ふわっと想像が花開く。なごみ表紙でした。 なのにっ！今週は表紙受難の週なのでしょうか。痴漢だのストーカーだの、あーあーあーあー。みなさま、きれいな心で読みましょう☆ 特別賞：痴漢寸前賞（危ないから）ストーカーで賞（ストーカーだから）		
B02	ゲーム	11 pt3 位1 sp ハラハラする駆け引き。設定もストーリーも緻密に組み立てられて楽しめます。で、これ誰が助かるの？全滅は悲しいなあ。 せっかくの力作、レイアウトをもっと読みやすくすると良い。 でもきっちり読んでもらえてのブロンズ・メダルでしたね、バースデーの快挙、おめでとう！ 特別賞：とりはだ賞（長い文章をよく書けたなあと）		
B03	「秒針の気持ち」	2 pt8 位0 sp いちばんマメな秒針君のいっしょうけんめいさ、けなげさが、伝わってきます。 なんだかメロディを付けて応援してあげたくなりそうな。		
B04	その針動が私たちを追い立てている	2 pt8 位1 sp 蛇に見立てたという着想が何ともユニーク魅力的。「チクタクと動く舌」なんて、そうそう出てくる発想ではありません。 アダムとイヴの世界をも参照されたのでしょうか。神話的な奥行きを感じました。 特別賞：比喩賞（比喩がすばらしい）		
		11 pt3 位1 sp フォントがフレーズにとってもよく似合っていますね。 永遠の追いかけて、かわいらしくまとめていただきました。		

B05	チクタク・ランデヴー	絵本テイストなタイトルがナイス！ 4000秒の正確さもフロアに評価されてブロンズ・メダルです、おめでとう！ 特別賞：トリビアで賞（4000秒を知っていたから） イチオシフレーズ：「4000秒くらいの」「愛の追いかっこ」
B06	教室の隅で	7 pt 6 位 1 sp パトラッシュ死なないで！ ちょっと止まるだけでいいんだから。 時計の自己犠牲ですね。泣ける話です。 がんばれ少年。一緒に応援したくなる、あったかストーリーでした。 特別賞：自爆しなくてもよかったで賞（反対に回ればよかったから）
B07	時刻むもの	1 pt 10 位 0 sp 長針短針ラヴストーリーはととてもとてもたくさんあったのですが、これは立ち止まれないせつなさを「悲しい宿命」と重々しく突き放したスタンスがユニークでした。
B08	個人主義	0 pt 11 位 0 sp 人は個人個人の時間を生きる。統制なんかされないさ。 どっくんどっくん。 クライアントともども、びっくり仰天の切り返しで、赤黒いリアリティがぐっと迫ってきます。グロさ（食事前なのに！）も味方に付けたインパクトでした。
B09	無題（自分に誇りを持てること）	10 pt 5 位 2 sp 両極端から説き起こして結論へ。 レイアウトと主張の構造がきれいにシンクロして分かりやすい工夫です。 ラストの宣言は、ちょっと急ぎすぎたでしょうか。 特別賞：レイアウト賞（レイアウトがいい） ドヤ賞（ドヤ感たまらない!!） イチオシフレーズ：「自分に誇りを持てること」× 2
B10	時計のつぶやき	30 pt 1 位 2 sp まさに発想の逆転！ 思いつきそうで、意外や、じつはこの作品だけだったというユニークさ。 アイディア勝負の諸賢は見習うべし。 30ポイントのメガ・ヒットでしたね。イチオシフレーズ大賞も付いてのゴールド・メダルでした。おめでとう!!! 特別賞：ダントツで賞（班のみんなから票を得たから） 左回りで賞 イチオシフレーズ：「A型？」 「あー」 「いつか左向きに回ってみたいなー。」× 4
B11	だいがくせいにつき	12 pt 2 位 3 sp ちょっとした悟り。なるほどね。 ありがち大学生の日常が、フォントの変化ともどもユーモラスに描写されて、しっかりフロアの共感を誘いました。シルバー・メダル&最多特別賞ゲットです、おめでとう!! 特別賞：デジャブ賞（思いあたる節があってドキッとしたから） がんばりま賞（サボるな！） 真理賞（大学生活の真理を表しているから） イチオシフレーズ：「あしたからがんばる。」× 3
		4 pt 7 位 2 sp 胸キュンな甘さ。空白にしっかり語らせてますね。 敢えて状況を見せず、いかようにでも想像できるところ

B12

恋時計

ががすてきな今週の読み納めでした。

おしあわせにっ。

特別賞：気取ってるで賞（気取ってます（笑））ラブ・

プラス賞（参考文献：ラブ・プラスDS）

イチオシフレーズ：「私、キミのことが好きみたい」

「僕の胸の鼓動がいつそう早く時を刻みだした。」